

2013年3月期第1四半期決算説明 質疑応答

1. 日時：2012年8月2日(木) 17:00~18:00

2. 場所：コンファレンスホール

3. 当社側説明者：代表取締役専務執行役員 CFO 岡田 譲治
執行役員 CFO 補佐兼経理部長 松原 圭吾
IR 部長 堀 健一

4. 質疑応答：

質問 サハリン II からの配当を除いてもエネルギーの業績は良さそうだが、油価、生産量、探鉱費等の要因に関し補足願いたい。事業計画の見通しよりも生産は良かったか、またそれは今後も続くか。

回答 油価上昇と生産量増の効果が出ており、MOECO、MEPME、MEPAU に関してはこの両方ともプラスで出ている。数量は堅調に推移している。

質問 環境認識に関し、中国はある程度高い成長が期待できると見ているとのことだが、鉄鋼製品や化学品等の業績は弱い印象を受ける。足元で鉄鋼原料の出荷が落ちている等の変調はあるか。現状の鉄鉱石価格は今期計画比で見ても弱い。

回答 鉄鋼製品は鋼材価格下落の影響を受けており、中国の影響が大きい。化学品も中国の需給が緩み、基礎化学品がトレードでマイナスとなっている。中国の景気刺激策、金融緩和の動きに注目している。

中国の粗鋼生産のベースになる川下の鋼材需要の減少に伴い、鉄鉱石価格は US\$120 前後まで落ちており、期首計画の見込みよりも下がっている。今の市況が続くと計画より弱い。短期的にはこの傾向が続くかもしれないが、中期的には内陸・沿岸の経済格差を埋める動きが進み、インフラ投資をはじめとして底堅い動きを見込んでいる。

質問 サハリン II の第1四半期配当は高水準と思われるが、1-3月のキャッシュフローからの決議か。今後のキャッシュフロー及び配当の見通しは。

回答 サハリン II の配当は、資本勘定、設備投資、足元キャッシュ等の複数要素を勘案して決議されるものであり、金額の予想は難しい。前年度は予想より配当が多くなり、今年度の予算においては前年度ほどは見込んでいない。今後は分からないが、有償減資が増えることはあり得る。

質問 ネット有利子負債が大きく変わっていないのに利息収支がマイナスの要因は。

回答 利息収支が悪くなっている要因は複数あり、Valepar 優先株の償還が進んでいることによる受取利息減少、マルチグレインを前年度第2四半期からフル連結したことによる利息負担増、米ドル金利上昇、外貨借入増など。

質問 関係会社の業績で、Road Machinery 社が増益だが、要因と今後の見通しは。

回答 米国及びメキシコで建機・鉱山機械を扱う会社であり、特に保守・メンテナンスといっ

たサービスが順調に伸びていることが要因。

質問

IHH 社が 7 月末に上場したが、第 2 四半期以降に会計上の利益計上はあるか。

回答

上場によるシェアダウンに伴うみなし売却益の計上が行われると予想している。

質問

マルチグレインは第 1 四半期も赤字が続いているが、第 2 四半期以降の見通しは。

回答

マルチグレインは前年度に完全子会社化し、ボトルネックだった内陸輸送の改善、不採算事業からの撤退、経営管理強化、コスト削減等を進めており、早期の経営安定化を目指している。内陸部の集荷販売の強化、インフラ整備、農業部門での新規開墾・土壌改良等を着々と進めている。ただ、今期はブラジルでも早魃となっており、前年度好調だった収穫が減ると見込まれている。農業事業の減益が懸念点。

質問

シェールの開発状況はどうか。生産が順調なのは原油・ガスのどちらか。

回答

ガスは、今期の計画通りやや開発ペースをスローダウンさせている。一方、オイルが主体のイーグルフォードは収益性が高いため、生産をなるべく早く増やそうと進めている。原油・ガスのいずれもほぼ計画通り。

質問

資源関連投資で、最近ジョイントベンチャー・パートナーが投資を遅らせる旨の報道等がなされている。このような動きにより当社投資計画に影響はあるか。

回答

ジョイントベンチャー・パートナーの拡張計画が後ろ倒しになるという決定事実はない。予定通りに進むと考えている。

質問

現状の資源価格水準を前提として、資源関連資産の減損は懸念されるか。

回答

そのような懸念はない。当社保有資産はかなり前に低コストで取得しており、現在の資源価格水準で減損懸念はない。

質問

イーグルフォード・シェールオイルは第 2 四半期以降も増産・増益傾向か。

回答

徐々に増産する計画ではあるが、四半期毎にはっきりと顕在化するかは何とも言えない。実績を四半期毎に都度確認しつつ、右肩上がりを狙う。

質問

BAF は第 1 四半期も赤字が残っているようだが、構造改革の進捗と今後の業績見通しは。

回答

インドネシアで導入された頭金規制は BAF にとってはむしろ有利と考えている。今までは頭金比率を下げた過当競争に巻き込まれていたが、BAF としては頭金比率を保てる顧客を選ぶことにより、今後は売上こそ多少落ちるかもしれないが、債権の質は改善していく見込み。タイムラグがあるので未だ貸倒引当金繰入額の負担が続くが、これらは徐々に減っていき、むしろ貸倒引当金の戻りが出て来ると思う。かつてのように大きな収益を上げることまでは現環境では見込めないかもしれないが、安定して収益を上げられる様に努力したい。近い内に効果は出ると見ている。

質問

今期 MCH の黒字は、前年度第 4 四半期に重荷となった一過性のピット拡張コストが無く

なったことにより業績が改善したという理解でよいか。

回答

前年度第 4 四半期は先行剥土等を行っていた。第 1 四半期はプロダクトミックス上有利にするための作業は続けているものの、コスト要因は減ってきている。一方、価格は下がっている。

質問

IHH のみなし売却益は第 2 四半期以降も見込めるのか。

回答

第 1 四半期には、トルコの病院を IHH が取得した際に取得対価の一部として新株を発行しており、当社の保有比率が 30% から 26.6% に低下したことに伴い、従前の純資産持分の希薄化部分と、新株発行に伴う純資産の増加額の当社持分の差額をみなし売却益として認識した。

第 2 四半期においては、IHH がシンガポール及びマレーシアの証券取引所に上場した際に新株を発行した結果、同様に dilution が起き、一定のみなし売却益が計上されると予想している。

質問

IHH みなし売却益は通期計画に織り込んでいたか。その場合、計画からの上振れはあるか。

回答

一定の前提で織り込んでいる。上振れがあるかについては、現段階ではコメントできない。

質問

エネルギーは数量増やサハリン II の配当により好調だったが、これらは通期計画に織り込んでいたか。第 1 四半期のみを見た場合、計画より上振れているか。

回答

通期予想は年間ベースで立てており、年間の予算を四半期毎に単純平均した金額よりは多い。足許生産状況は予定通りであり順調。

質問

鉄鉱石・銅の状況は、第 1 四半期の計画に対しどうか。鉄鉱石価格前提は非開示だが、考え方としては通期一定の価格を前提においていたか。

回答

鉄鉱石の価格前提については、年間予算策定時の足許状況を踏まえつつ、また時期によって価格が変動することを想定しつつ、前提価格としては一定の価格を設定している。第 1 四半期の鉄鉱石は、量が堅調であり、価格も想定範囲内だった。銅はコジャワシで品位が低くなっているため、ジョイントベンチャー内で改善策を実行中。銅については、量も前年同期に比べると少なめになっている。

質問

鉄鉱石販売価格につき、前年度第 3 四半期からスポット価格ベースの比率が増えているが、その後再びスポット比率が低下するような傾向はあるか。

回答

スポット価格による取引が過半になっているという状況は前年度第 4 四半期と第 1 四半期とで本質的に変わっていない。

質問

MOECO タイ沖プロジェクトでは増産中とのことだが、足許ではどれくらい生産されているのか、また、今後さらに増産が進んでいくのか。

回答

ガスは予定通り、順調に生産されている。数量は非開示。

質問

NOVUS の期首予想は保守的になる傾向があるが、第 1 四半期終了時で期首の見通しと結果に乖離はあるか。

回答

NOVUS の期首予想は、全世界の需給環境に照らし、メチオニン価格が下落するのではという前提を置いていた。第 1 四半期の結果をみる限りでは、当該予想ほどの下落はなく、予想よりやや良い状況。ただし、メチオニン以外の商品で一過性の損失が発生している。

以 上